

よいことの
ために
手を取りあおう



クラブテーマ

「来て見て知って ～つながるロータリー～」

国際ロータリー第2750地区 多摩中グループ

東京武蔵国分寺ロータリークラブ

週報

2025.9.29

第1368回例会 報告



司会：
内田 次郎 SAA委員長

【開会点鐘】 村谷 晃司 会長



【国歌・ロータリーソング】
「四つのテスト」
ソングリーダー 白木 毅生 会員

【会長の時間】 村谷 晃司 会長



今日は、当地区ロータリー財団ポリオプラス委員会副委員長の圓井順子様に卓話にお越しいただいております。お忙しいところありがとうございます。9月は祝日休会などがあり2週間が空きました。9月15日の祝日には、cocobunjiプラザリオンホールで開催されました「認定

NPO法人冒険遊び場の会」の25周年記念イベントへ行ってきました。国分寺市長をはじめ、たいへん大勢の方々が出席しておられ、25周年記念誌が配布されたり、遊び場を利用してきた方々の動画も紹介されていました。その動画の中で、冒険遊び場の会の活動が、同じ世代の人だけでなく、世代を超えたつながりの場となっているというコメントがありました。冒険遊び場の会へは、当クラブでも地区補助金を利用した支援活動をしたりその後も継続的な支援をしてきましたが冒険遊び場の会への支援だけでなく当クラブの様々な奉仕活動が「つながり」のきっかけになればと改めて感じました。さて、本年度のクラブテーマは、来て見て知って～つながるロータリーとしており、9月はまず、角田桂司米山奨学委員長に米山を知るといこととお話いただきました。そして前回例会では、三枝幸夫ロータリー財団委員長にロータリー財団を知るといこととお話いただきました。私たち自身がロータリーの活動を知って、また参加することで、よい活動が広がっていくと思います。今日は、ポリオを知るといことと圓井様にお話をお聞きする機会をいただきました。先日はポリオ根絶チャリティゴルフに多くの会員の方に参加いただき、来月は世界ポリオデーに先立ちポリオ例会も予定しております。ポリオ例会へつながる素晴らしい卓話の時間を楽しみにしておりますので、少し短めとなりますが会長の時間とさせていただきます。



【幹事報告】
山本 雄一 幹事

- 9月8日（月）第1367回例会
- 9月8日（月）親睦委員会炉辺会議
- 9月9日（火）第7回多摩中G協議会
- 9月12日（金）危機管理オンラインセミナー
- 9月17日（水）国分寺まつり説明会
- 9月18日（木）ポリオ根絶チャリティゴルフ
- 9月25日（木）第2回地区大会実行委員会
- 9月29日（月）第四回理事会



【委員会報告】
★出席委員会／出席報告
遠藤 美知子 委員

会員数	44名	免除	4名
有効会員数	40名		
出席者	25名	メイクアップ済	3名
出席者計	28名	出席率	70%

前々回の修正 なし



【委員会報告】
★ロータリー財団ポリオプラス委員会
矢野 幸一 委員

・2025-26年度ポリオ根絶チャリティゴルフのご報告



【委員会報告】
★米山奨学委員会
奥水 香 副委員長

・米山への寄付のご依頼



【委員会報告】
★MKR会
浅川 直行 会長

・第51回MKRゴルフ開催（11月5日青梅ゴルフ倶楽部）



【ニコニコボックス】
親睦活動委員会
川辺 康信 委員

○ 東京中央新ロータリークラブ

圓井 順子 様

本日の卓話をさせていただきます。どうか優しい目でお付き合いください。

○ 村谷 晃司 会長 ・ 山本 雄一 幹事

久々の例会ですが皆様にお会いできて大変嬉しく思っております。本日の卓話は「ポリオを知る」です。圓井様よろしくお祈りします。

○ 縄 康雄 会員

今日は例会をお休みします。10月5、6日に東京武蔵国分寺ロータリークラブの一大事業である親睦旅行があります。私は出席できませんが、皆様に伊勢神宮のご利益と楽しい旅行になりますよう、祈念してニコニコします。

○ 廣瀬 可世子 会員

前回の例会をリモートで出席したので、100%を維持できましたのでニコニコします。

○ 輿水 香 会員

ポリオ委員の圓井様の卓話を楽しみにしております。

○ 遠藤 美知子 会員

去る16日、孫の案内で夜の大阪万博に行ってきました。やはりすごい人で入場するまでに1時間半もかかりました。良い思い出とともに1年分も歩いたような気がします。元気に戻れたことに感謝してニコニコです。

○ 小柳 洋次 会員

9月20日土曜日に長男がご縁があり、結婚いたしました。また、9月18日ポリオゴルフコンペにて3位に入りましたので、ニコニコします。

○ 矢野 幸一 会員

圓井順子様、本日のポリオ卓話を楽しみにしています。ありがとうございます。

★ニコニコ大賞

小柳 洋次 会員



【卓話】「ポリオを知る」

ポリオ現地レポート IN パキスタン



国際ロータリー第2750地区
ロータリー財団ポリオプラス委員会

東京中央新ロータリークラブ

圓井 順子 様

<https://www.endpolio.org/>

【自己紹介】

看護師であり医療系の会社を運営しつつ現場の看護師業務も継続。奉仕活動を自らの手と時間で行いたい思いからロータリークラブに入会し、入会直後に財団委員長を務めることとなった。

～ポリオ根絶へ道のり～

ポリオは治療法がなくワクチンこそ唯一の予防手段である。パキスタンとアフガニスタンでは治安・文化・衛生の壁が根絶を難しくしており、女性ワーカー中心の戸別投与や軍・郡

との連携、高効率拠点での投与など現場判断が不可欠。寄付の透明性確認と継続的な支援、不活化ワクチンの戦略的活用、データに基づく安全対策の強化により「あと少し」を確実な一歩に変える必要がある。

【最新のポリオ感染状況】

- 最新情報ではアフガニスタンが4件、パキスタンが26件のポリオ感染が報告。サイトはリアルタイムではないが件数把握が可能で、QRコードから参照可。パキスタンでは州別状況に差があり、2025年は27件、2024年は74件。シンド州では報告件数が23件から7件へ減少が見えるが、治安悪化・迫害により真の患者数は過小把握とされる。

【治安とワクチン活動の困難】

- シンド州は非常に厄介な地域で、毎年20名のポリオワーカーが命を落としている。4名で投与活動中に2名がその場で殺害、2名が連行され別の現場で遺体が発見される事例などが存在。報告された7件は把握できた範囲に過ぎず、実際の患者数はさらに多い可能性が高い。

【2025年2月のパキスタン現地活動チーム】

- 2025年2月にパキスタンで活動。チームの平均年齢はおそらく70超。半数が初めてパキスタンでポリオのワクチン活動を経験。

【なぜインドではなくパキスタンで活動するのか】

- インドでは2011年以降、野生株による新規感染者はゼロ。2014年3月にWHOがインドのポリオ根絶を正式発表。対してパキスタンとアフガニスタンには野生株が残存し、不衛生環境と低接種率が重なり主戦場となっているため、パキスタンでの投与が必要。

【ポリオの野生株とワクチン由来株】

- ポリオには野生株と、経口生ワクチン投与後に低接種率・不衛生環境で拡散するワクチン由来の変異株がある。生ワクチンは一定数で感染を引き起こすリスクがあり、アフリカ・アジアなどハイリスク地域では接種率が低いと封じ込めに失敗して患者が発生。

【パキスタン政府の接種計画と日本政府の支援】

- パキスタン政府は今年、4540万人の子どもを対象にワクチン接種を実施すると報告。インターネット情報では現時点で約半分の子どもの接種が完了。日本政府はパキスタンの取り組みを支援するため、4億5550万円の無償資金提供を予定。

【ポリオの歴史と症例】

- 古代エジプト第18王朝の石碑に片足麻痺で杖をつく人物が描かれポリオと推測される。日本では1940年代から流行し1960年に北海道を中心に大流行。翌年ソ連がワクチン支援を行い一斉投与で収束。一斉投与が封じ込めに重要。

【ポリオの医学的概要】

- 正式名称は急性灰白髄炎・脊髄性小児麻痺。糞便経路で主に感染し、飛沫感染の可能性も指摘。潜伏期間はだいたい7日から105日。初期症状は風邪に類似し、その後手足麻痺・筋萎縮・呼吸筋障害・四肢麻痺に至る。貧困地域では補装具がなく、移動は胴体や手で行い、拘縮が進行。就労不能となり物乞いに陥る残酷な帰結。

【代表的症例写真と鉄の肺】

- 1960年以前の日本にも四肢麻痺の子どもが多数。ポリオによる足の極端な左右差や杖使用の写真が知られる。呼吸筋障害者は鉄の肺に入って生活していた。最長約70年以上鉄の肺で生活し、弁護士資格を取得したアメリカのトルル氏が最近逝去。

【ポリオとロータリー財団の歴史】

- 1905年に無症状感染の存在が初めて発表。29年に鉄の肺が発明。55年にワクチンの安全性が発表され、FDAで経口ポリオワクチンが小児認可。79年にロータリーがフィリピンでポリオ活動開始。85年に国際ロータリーがポリオプラス開始。88年に国際ロータリーとWHOがGPEI（世界ポリオ根絶推進活動）を立ち上げ。

【ビル&メリンダ財団との関係とロータリーの役割】

- ビル&メリンダ財団はロータリーの寄付額の2倍を拠出するマッチングを継続。彼らの支援は素晴らしいが、ポリオ根絶活動はロータリーが始め、ロータリーがリーディングであるという認識を忘れてはならない。

【講師の背景とパキスタン訪問の理由】

- 講師は2022年から毎年パキスタンを訪問し、地区への出向に伴いポリオ活動にさらに関与。寄付金が現地でのように使われているかを自分の目で確認することが重要だと2年目で理解し、卓を通して寄付の成果を報告する使命感を持っている。2025年5月にパキスタン訪問予定だったが、の戦争発生により1週間前にキャンセル。現在は休戦状態との認識。

【パキスタンの地政学的背景と難民状況】

- パキスタンはイラン・インド・アフガニスタン・中国に囲まれた複雑な地域に位置。アフガニスタンからの難民流入が多く、子どもの数が非常に多い。イスラム文化におけるバースコントロール概念がなく、家族内の女性の多妻制（奥さん4人までOK）や子どもの多さ（接種年齢の子が家の中に10人ぐらい）などが特徴。

【イスラム文化下でのポリオ活動の方法とリスク】

- 婚姻外の男女接触禁止の文化により男性ワーカーは家に入らず、女性ワーカーが家に入り説明・投与を行う。日本人であること（右肩に日本の国旗）が安心材料。ポリオワーカーは2名1組でクーラーボックスに適正温度でワクチンを持ち歩き各家を訪問。毎年10名のポリオワーカーが亡くなる背景にはビン・ラディン暗殺時にポリオワーカーがアジト発見に利用されたことによる敵視がある。活動は郡やコマンド部隊に守られつつ行いが、緊張が高まる瞬間もあり、身の安全のため退避する判断も行う。

【テロ・治安と現地生活環境】

- 2025-03-11にバルチスタン州で列車テロが発生。1ヶ月前に電車内でワクチン活動を行っていたため衝撃的。反政府勢力が存在し、ポリオ根絶は一筋縄ではいかない。テント生活では衛生環境が悪く、ハエが多く、屋内外の隔たりはポコ布1枚程度。トイレは見たことがなく近場で用を足すと推定。不法に占拠してテントを張り、次にアパートへ引っ越すためアパート前にテントを立てる。

【高効率投与拠点（バスターミナル）での活動】

- 1日約1000台のバスが行き交うバスターミナルで、軍の設備が併設され軍が先導し通路確保。ポリオワーカー1名に日本のロータリアン2名の体制でバスへ乗り込み子どもへ投与。この拠点はリスクが高いため投与ワーカーは全員男性で3個体で実施。1日3000人のワクチン投与が可能な高効率拠点。

【渡航時の生活・衛生・安全事情】

- トイレは有料トイレがあり女性でも対応可能。生水は一切飲まない。ホテルの生野菜は禁止だが先輩ロータリアンの一部が食べてしまい、約30%が菌にやられる。ハエは塊で存在。ホテルの衛生はそれなりだがゴキブリが出た。安全面ではパキスタン政府が積極協力し、危険地域にはコマンド部隊配置。

【ワクチン投与の実務】

- スポイト状で2滴ドロップする経口投与。2025年は手帳がないため左手小指に紫のマーカーで接種印。子どもは皮脂汚れが酷くマーカーがはじかれ印付けは困難。1つの現場で約2時間投与しバスに戻ると身体が抹茶色になるほど埃まみれ。衛生状態は良くない。ワクチンはたった2滴だが唯一の予防手段で治療法は全くない。一生涯、物乞いとして生きざるを得ない残酷な伝染病。寄付を無駄にしないため慎重に投与する。

【文化的背景と安心材料】

- 女性は顔を覆い美を守り他者からの危害を避ける文化があり、空間分離が徹底。日本人であること（黄色いポロシャツと右肩の日本国旗）は受け入れの安心材料。アメリカのロータリアンはパキスタンに入れない可能性がある。

【映画『ホワイトバード』と歴史的文脈】

- 『ホワイトバード』は昨年末に上映。主人公は左に義足をつけ、ポリオに感染した話。アウシュビッツ解放から80周年を祝した文脈で、80年前にもポリオ犠牲の子どもがいた。2025年の今もポリオに立ち向かう必要があり、ワクチンを打ってもワクチン由来のポリオが出る可能性がある。ポリオ根絶まであと少しと言われるが、現地ではその「少し」は遠い道のり。



【提案】

- 感染データの信頼性評価と現地治安情報の統合的監視が必要
- 現地ワーカーの安全確保策と匿名・分散型投与手法の導入を検討
- 高リスク地域では不活化ワクチンの戦略的活用と接種率向上が必要
- ロータリーのリーダーシップとブランドの可視化・周知を強化
- 女性ワーカー中心の体制と安全確保のための現地治安部隊連携を強化
- 食事・水の安全ルール遵守により罹患率を低減

【謝辞】 村谷 晃司 会長

【開会点鐘】 村谷 晃司 会長

東京武蔵国分寺ロータリークラブ

会長：村谷 晃司 幹事：山本 雄一

公共イメージ・会報委員会 委員長：田中 孝和 副委員長：浅川 直行 委員：輿水 香 委員：保坂 光彦

例会場 国分寺市本町3-11-12 多摩信用金庫 国分寺支店3階

事務局 国分寺市南町3-20-3 国分寺ターミナルビル9F